

『あるって くるぶニュース』は、芸術分野の様々な活動とまちづくり運動を自主的に企画、運営、支援する市民のグループで非営利組織の『あるって くるぶ』(Arte club)の活動状況のご報告と今後の予定、他の地域で活動しているグループの情報をお知らせするメディアです。

・・・こんな活動をしています、ご参加ください・・・

あるって くるぶギャラリー

—活動のご報告—

◇あるって くるぶ 発会記念・井草裕明展

12月3日のオープニングパーティーは、雪が降ったにもかかわらず、たくさんの方がお集まりくださり「あるって くるぶ」発会を記念して石割りの儀式が行われたり、埼玉県立近代美術館館長の田中さんや川越蔵の会会長の馬場さん、川越市美術館準備室船津さん、教育委員の伊藤さん、今回の井草さん、来年展示を予定している圓城寺さん金子さん藤井さん右城さん(石笛の演奏がありました)百鬼丸さん根岸さん和田さん等の作家を囲み楽しいひとときを過ごしました。最後にオークションが行われ大いに盛り上がり、二次会になだれ込みました。その上会員もいっきに10名の入会者がありました。会期中会場を飾るのは会員のお花屋さんが提供して下さったフラワーアレンジですし、会場当番、ご案内のコピー、お茶出しなど、アートボランティアが走り回る会期となりました。

あるって くるぶ組曲 高橋道弘

1、弁天童子 小野寺優元 '98.11.18 水
大井町の水源の浅かった大井跡の東の親水公園に、
弁天童子は雑木林の秋にきりっと太って立つ。

砂川堀の対岸に弁天の森の明治期のにぎわいがある。
晩秋の森に残ったのは、しゃがの葉の群だけ。

親水公園の東の荒地に泡黄金菊の群落が咲く、
この秋、自生で見た太古の武蔵野の花は、
我が家のそばに咲くだけ。

今年はツツジ秋の狂い咲きが多い、この北や西に
サツキ金菜、珊瑚菜、綾錦があちこちに、今咲く。

太古から人の住みついた、この砂川堀の沢や湧水帯に、
弁天童子としゃがと泡黄金菊がにじんで行く。

(パート2は次号をお楽しみに)

—これからのスケジュール—

◆美術館探訪・東京都現代美術館の見学

期日・1999.2月13日(土)
場所・東京都江東区三好4-1-103-5245-4111
企画展・3階：もっとアニュアル、
ひそやかなラディカリズム
1階、地下2階：アクション
—行為がアートになる時 1949~1979
・日が暮れたら両国橋付近でどぜう鍋の予定、
鍋のみのご参加も歓迎します。
・当日の携帯電話は090-3699-0936(草野)

圓城寺俊之展「平面」 1999年3月4日~14日
オープニング・ミニコンサートを予定しています
金子 清美展「平面」 1999年4月8日~18日
オープニング・ミニコンサートを予定しています
藤井 龍徳展「インスタレーション」1999年6月
コンセプトは「ふりそそぐ」の予定です
右城 真展「古楽器製作」 1999年7月中旬
古楽器による演奏を予定しています
百鬼丸展「切り絵」 1999年9月初旬
根岸 和弘展「平面」 1999年10月下旬
和田 章展「陶」 1999年11月下旬
たべけんぞう展「立体」 1999年12月中旬
楽しくて、ちょっと悲しいクリスマスの展示です

◆「インドネシア・バリ島の布と絵画 小品展」
(小野寺コレクション)
1999年1月22日~31日(25、26日は休み)

—これから企画します—

何か思い付いたらご提案下さい。
会期末定：コラボレーション・「わっはっは」
この日は「わらって くるぶ」といいます
会期末定：木彫(立体)

三番町ギャラリーよりお知らせ
松津的美写真展「尾瀬の四・季・彩」
1999年1月9日(土)~17日(日)

⇒裏へ

あるてくるぶ ワークショップ

—活動のご報告—

□ 鉄道連隊の廃線跡を歩く「TEKU・TEKU+あるてくるぶ会」

1998年12月26日(土) 13:00~17:00

松戸駅前・工兵学校跡<廃線跡を歩く>みのり台駅
<電車にて>初富駅<廃線跡を歩く>二和向台駅
<電車にて>新津田沼駅前・鉄道連隊本部跡

参加者23名

》東京側から江戸川を渡って千葉県に入るとすぐに下総台地にぶつかる。地形学的には東京西部に広く分布する武蔵野台地と同じ性質の典型的な洪積台地であり、標高は北西に低く、南東に高い。江戸川に臨む市川付近では約20m、松戸付近では約25mの標高であるが、鎌ヶ谷付近では約28m、東金付近にゆくと約60mにも達する。台地面は多数の小河川によって樹枝状に谷が刻まれており、このような地形を谷津と呼ぶ。古代から中世にかけて、人間はこの台地の縁や直下に集落をつくり台地の下に広がる海岸平野や谷津を水田として暮らしてきた。現在は市川市内となる真間に伝えられている手児奈の伝説は台地下の洪積平野の開発が古い歴史をもっていることを示している。

ところが台地の上は水を得る事が困難なため、明治初期までその大部分が山林原野のまま残された、とくに内陸部は戦国時代から馬産地として知られ、江戸幕府は慶長年間(1596~1614)に佐倉七牧、小金五牧と通称される馬の放牧地を設けて低い土手で囲んだ地区約15,000町歩に馬を放し飼いで自由繁殖させ、軍馬の供給源としていた

1869(明治2)年、明治政府はこの幕府の放牧地の開墾をはかり、東京の失業武士や窮民、近国の農民などを下総開墾会社の組織の下に送りこんだ。このときつくられた13集落が一種の番号を併用した地名を付され、現在でも地名、駅名として用いられている。初富(はつとみ) 二和(ふたわ) 美咲(みさき) 豊四季(とよしき) 五香(ごこう) 六実(むつみ) 七栄(ななえ) 八街(やちまた) 九美上(くみあげ) 十倉(とおくら) 十一(とよひと) 十二(とよふた) 十三(とよみつ)

下総台地を変えた第2の波は軍隊の駐屯地の展開であった。古くは1873(明治6)年、佐倉城内で歩兵第2連隊が編成されたのはじまり、同年台地上に習志野演習場が指定されている。その後

あるてくるぶ コンサート

—活動のご報告—

演奏家の息づかいが伝わる生の音の感動を分かち合いましょう!

—これからのスケジュール—

■百鬼丸の切絵教室 三番町ギャラリーにて

2月8、22日(月) 1:00pm~4:00pm

■会場当番ボランティア・募集のお知らせ

3月4、5、6、7、11、12、13、14日の圓城寺さんの個展

① 前半12:00~16:00、後半16:00~19:00 いずれか ②

1885(明治18)年、国府台に教導団(下士官養成の学校)が置かれ、さらに野砲兵(のちに野戦重砲兵)、騎兵、鉄道などの部隊や学校が大正後期までに次々と営地を台地上の各地に求めて定着した。第2次大戦前までに、国府台(市川市)と下志津原(四街道市)松戸に野戦重歩兵連隊と砲兵学校、習志野に騎兵連隊と戦車連隊、津田沼と千葉に鉄道連隊、戦車連隊、歩兵学校、戦車学校、防空学校(のち高射砲学校と改称)、佐倉に歩兵連隊など多数の部隊営地が分布するに至った。とくに鉄道部隊は鉄道第1連隊と鉄道材料廠を千葉に、第2連隊と陸軍鉄道練習部を津田沼に配置し、軌間600mmと1435mmの演習線を松戸—津田沼—大久保—千葉—下志津間に設けていた。平時には地元民の便乗も許し、貨物の輸送も行っていたという。

以上は「鉄道ピクトリアル」新京成電鉄のあゆみによるもので参考資料として頂いたものです。

当日歩いたコースには、松戸に工兵学校の正門、唯一鉄道らしい二和道付近の橋脚の遺構、旧鉄道連隊正門(現千葉工業大学通用門)などの工作物と習志野の自衛隊基地が車窓から眺められ、かつて鉄道連隊が駐屯していたであろうと伺い知れるのみで、廃線跡はアスファルト道路になり、台地の上は平和な住宅地が広がり、兵どもが夢の跡という感じの一日でした。

次回のあるてくるぶ会

企画: 古代官道・東海道/下総編①河曲駅~大倉駅

日時: 1999.1/30(土) 11時10分~17時頃

集合: 総武線・千葉駅/西口改札外

(東京寄り階段を上がって下さい)

コース: 登渡神社(旧河曲駅)~中央区役所+市立美術館(昼食)~亥鼻公園(千葉城址)~千葉寺~青葉の森公園+中央博物館(休憩)~白旗~南生実町(旧大倉駅); 歩行約8km

参加希望者は草野まで連絡して下さい